

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立吉田中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上の項目ではマイプランの成果指標を達成できた職員が増え意識した授業実践に繋がっている。学力状況調査の結果も高い数値を示し7割の教科で県の正答率を上回り良好な結果となった。観点別では落ち込みが見られる教科も見られるので分析して授業に生かすことが必要である。</p> <p>・心の教育の項目では道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。いじめの早期発見・早期対応体制の充実については、生徒の98.2%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえている。自分の夢や進路について考えるようになった生徒が増加した。今後も将来設計や意思決定能力を向上させる手立てを講じていきたい。</p> <p>・業務改善・働き方改革の項目では、コロナ禍の中ではあったが職員の間で時間外勤務時間は月45時間を15時間ほど下回った。しかし、個別に見ると平均で70時間を超える職員もおり、部活動指導の負担軽減などで業務の平準化を図る必要がある。学校行事等の規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものもしっかりと精選し、加えてタブレット等のICT機器の効果的活用についてさらに検証していく必要がある。</p> <p>・地域とともにある学校づくりの項目では、地域に出向く活動は制限されたが、地域人材の活用など感染対策を十分に行いながら地域連携の取組を実施することができた。次年度もコロナの状況に合わせて実施する活動を増やしていきたい。</p>

2 学校教育目標	賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びのなかで～
----------	--

3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進 ⑤働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				主な担当者			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上とする。	・校内研修等で全職員が学力向上対策シートの共通実践を共有し、マイプランにつなげた取組を実践する。				学力向上対策コーディネーター
	○「吉田メソッド」の深化	○「自ら考える」「伝え合う」場の工夫に重点を置き、そのために必要な基礎基本の定着を図る授業実践した教師を80%以上とする。	・「考える」「伝え合う」「振り返る」活動を中心とした学習指導過程を充実させる。 ・基礎基本の定着を図る。				研究主任 各教科主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒90%以上とする。	・道徳科の授業の充実 ・生徒主体の人権学習の推進				道徳教育推進教師 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校はいじめに対して未然防止、早期発見、組織的対応をしている」という生徒・保護者の肯定的な評価80%以上をめざす。	・自他を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくり ・日頃の観察、アンケート等による早期発見と組織的対応				生徒指導主事 教育相談担当 人権・同和教育担当
	◎志を高める教育活動の実践(自主・自立)	◎自己実現に向けて努力する気持ちをもつ生徒80%以上をめざす。	・自分の進路について主体的に考えさせたり、全校スピーチなどを行うことで、生徒の将来設計能力や意思決定能力、コミュニケーション能力を高める。				進路指導主事 総合的な学習の時間担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上をめざす。	・個別の健康観察を実施し、基本的な生活習慣の改善を図る。 ・関係機関と連携し「食育教室」を実施。				給食・食育担当 保健主事
	○健康の増進と体力の向上及び保健管理の徹底	○自他の健康増進と体力の向上、感染症対策を意識した生活を送る生徒80%以上をめざす。	・運動・休養・食事のバランスの良い生活や感染症予防対策に対して生徒が意識できるようにする。				保健体育教科主任 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在在校等時間の上限45時間を遵守する。	・複数顧問体制による部活動指導の負担軽減と確実な定時退勤日の実施				管理職
	○業務の効率化と生徒と関わる時間の充実	○コロナ禍における行事の精選と運用の工夫、ICTの効果的活用	・学校行事等の必要性を見直し、継続・廃止について検討する。 ・学校行事では、生徒としっかり関わる。				教育情報化推進リーダー 管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小中一貫教育の推進	○9年間の学びを意識した小学校との一貫教育の充実	○小中教員の相互乗り入れ授業や交流授業を昨年より40%増やす。 ○乗り入れ授業の充実により、学力の向上を図る。	・小中連絡会を定期的に行い特に教務主任の連携を密にして計画を立てる。 ・小中合同の打合せ時間を計画的に設定する。				教務主任 研究主任
○地域とともにある学校づくり	○地域とのつながりを大切に、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	○地域と連携したボランティア活動への参加生徒数を全校生徒数の60%以上にする。	・「吉田学」を実施する際に、地域人材を活用する。 ・地域から学ぶだけでなく、地域に還元する活動を取り入れる。				ボランティア担当 管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------